

果樹に関する技術対策

- ア 雪害を受けた樹体の損傷の程度に応じて、かすがいやボルト等を使って損傷部の癒合や、改植の検討が必要です。
- イ 損傷した樹体は病害虫の被害を受けやすいので、発生動向に十分注意し、適切な防除に努めます。
- ウ 生育が進み、耐凍性が落ちている場合、凍害を受けるおそれがある場合には、主幹部への白塗剤の塗布、わら巻き等の防寒対策を行います。
- エ 倒伏した場合は、健全な根を切らないようにできる限り早く引き起こし、支柱を添えて固定します。枝裂けした場合は、針金、ボルト等で結合し、傷口に塗布剤を塗ります。
- オ 被害により樹勢が弱まっている場合は、葉害が発生しないよう留意しつつ病害虫の防除を実施するとともに、樹勢に見合った適切なせん定、施肥などを実施します。
- カ ブドウにおいて、雨除け施設が被害を受けて、露地栽培に転換しなくてはならない場合、雨媒伝染性の病害の発生が懸念されるため、露地巨峰病害虫参考防除例を参考に防除を行うとともに、ポリ製の傘紙を房にかけるなど耕種的防除を徹底します。